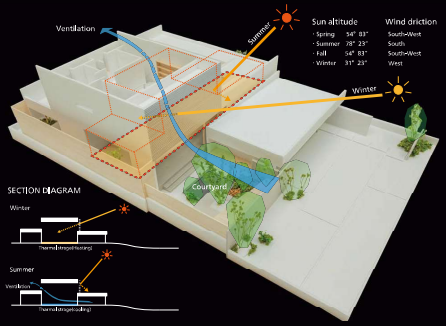


夫婦のシェアハウス

House Shared by Couples

家族がお互いに好きな事を大切に想いあえる、
共有と専有をあわせ持つ
シェアハウスのような居心地がある住宅

書棚を見上げた天井は暖かみがあり、暖かいカーペットから発せられる陽だまりは社交上は自然なように親しい距離感を保つた心地よさをマテリアル空間にもたらしている。

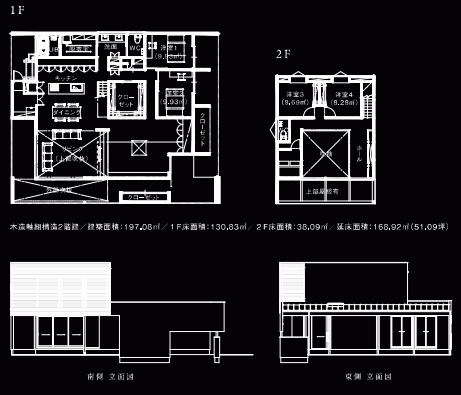


施主は往復4時間の道のりを15年間通い続け
事業と家族の暮らしを両立させて来た。
今回、福知山で新たな暮らしを始めることを決意。
忙しい事業と長い通勤時間の中において、
子育て、仕事、生活の喜怒哀楽を共にしてきた夫妻。
互いの理解、尊重を育み、それぞれが
好きなことを大切に想い合える夫妻は、
共有と専有をあわせ持つシェアハウスのような
居心地を新たな家求めた。



全白である上層を暖かみのある敷居長、窓も、壁紙は設備材料を最小化し快適な空間を作らした。建築と設備の前面内構式で地域特有の気候条件を突撃、早業を上層に土間に納めて光と採熱環境を高めた。

環境検討



空間特徴

リビングが印刷は全自由になり、果敢な高天井をポイントアクセントとし、印刷にすることで、ひとつのダイナミックスペースとして印刷と空間の自由を生んでいる。

小さな印刷は下層の階層を存し、高天井であり、主要な階層を存して、採光・集熱で設備の負担を減らした。カーペットで暖かみと空の色を映し出し、廊下からの存在を確保している。

